

## 「つなぐ」科学コミュニケーション活動

薄井芳奈 Yoshina USUI  
KOBEらぼ♪ Polka



長く高校教員として生物教育に携わってきました。研究機関などの広報の方々からサイエンスコミュニケーション（SC）について学ぶことも多く、刺激を受けて、自身の活動の軸足をSCに移すことを決意し、拠点として小さな実験室「KOBEらぼ♪ Polka」（らぼポルカ）を2017年に開設しました。

大切にしたい取り組みのひとつは先生どうしのSCです。教員がつながりあい、ともに実験教材を試し、授業実践に向けた意見交換をする場として、教員実験研修会「KOBE金曜EveLabo」を主宰し、6年間で50回の例会を実施してきました。経験豊かな教員から学び、若い先生方のアイデアを共有する機会です。参加教員が例会での体験を学校に持ち帰り、現場の実情に合った工夫を加えて実践に結びつけてくれています。また、一般向けSC活動に取り組む方との交流を図り、その考え方や手法に学び、学校での授

業に生かす活動にも力を入れています。いわば、「横につなぐSC活動」です。

もうひとつは、家庭の中のSC。たとえば、学校公開イベントの体験実験でいちばん楽しそうなのは保護者班だったりします。学校での実験観察は気づきやワクワクに満ちていて、こんな楽しいことを学校の中だけに閉じ込めておくのはもったいないと感じてきました。今は、感染対策のため家族単位での実施ですが、実験を伴うサイエンスカフェや自由研究サポート講座を親子参加方式で行なっています。親が子どもから刺激を受け、関心を共有する姿勢をもたせるときに、家庭でのSCは盛り上がります。「理科ってこんなに面白いんだ、と初めて思いました」といった保護者の声を聞くにつけ、講座への参加が親子の気持ちをつなぎ、家庭でのSCの芽を育むことにつながればと思います。

このたびの認定にあたっては、SC実践講座のエッセイ課題「あなたにとって科学とは」に取り組み、自分の原点を再確認できました。「生きるしくみの面白さ」を感じた瞬間の「あ！」を共有したい。その場面をつくることに、いろいろなつながりを探りつつ、取り組んでいく所存です。